

日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会
定期安全レビュー分科会
第7回 P S R作業会 議事要旨

日時：2005年3月8日（火）13:30～17:00

場所（社）日本原子力学会 会議室

出席者：（敬称略）

委員 平野〈主査〉，三浦〈副主査〉，成宮〈幹事〉，池上，石崎，及川，小林，路次，（斉藤代），素都，大山（高尾代），寺田，竹下（光岡代），森田，吉田 14名
常時参加者 佐藤，須田，村山，森本 4名
発言希望者 倉本 1名
傍聴希望者 今井，上野 2名
事務局 太田

配付資料

P6WG1-7-1 第6回P S R作業会議事要旨（案）
P6WG1-7-2 P S R標準に係る検討状況
P6WG1-7-3 I A E Aガイドとの比較等
P6WG1-7-4-1 P S R標準案の修正の考え方
P6WG1-7-4-2 P S R標準案新旧比較表（修正案）
P6WG1-7-4-3 P S R標準案（修正案）
P6WG1-7-5 「定期安全レビューに係る最新の欧州状況調査」結果のまとめ
P6WG1-7-参考1 第17回 発電炉専門部会 議事録案（PSR/PLM部分）
P6WG1-7-参考2 第20回 標準委員会議事録案（PSR/PLM部分）
P6WG1-7-参考3 標準委員会/専門部会等スケジュール（案） rev.1

議事要旨

議事に先立ち事務局より代理を含め委員14名が出席しており，本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。

1. 前回議事要旨確認

前回議事要旨(案)について以下の修正を行い承認された。（P6WG1-7-1）

- ROP, PI, GL, INの説明を加える。
 - P2 下から10行目の「経年化について，安管審・保安検査が該当なし，PLMのみ該当としているが，…」は主旨を明確化した記載に修正する。
 - P3 上から10行目「パフォーマンスインデックスやROPと似ていてではないか。」は「パフォーマンスインデックスやROPで使用されているものと似ていてではないか。」に修正する。
 - P4 上から1行目「ここではこれだけに限定する」は「ここではこれをミニマムリクワイアメントとする」とに修正する。

2. 人事について

三浦副主査より，路次安憲氏（原子力安全・保安院）の新委員としての推薦がなされ，挙手による決議により，これを選任した（斎藤委員は本日をもって退任）。

斎藤雅弘，持丸康和，山口幸四郎（原子力安全・保安院），森本研次((株)原子力エンジニアリング)の4氏を常時参加者として承認した。

3. 発電炉専門部会，標準委員会への中間報告結果報告

成宮幹事より，発電炉専門部会および標準委員会への報告結果の紹介があった。（P6WG1-7-参考1，P6WG1-7-参考2）

専門部会ではP S Aの活動との関連，外部評価，P S Aのレベル等についての議論，標準委員会では外部評価の項目，最新知見の項目等について議論がなされたとの紹介があった。

4. P S R標準に係る検討状況

成宮幹事より，これまでの分科会，作業会でのコメントへの対応状況について説明があった。（P6WG1-7-2）

以下の議論があった。

→現在高経年化検討委員会が開催されており，8月にとりまとめられる予定である。10年目，20年目のPSRの位置付け（PSRとPLMの関係）が議論されると思われる。8月頃高経年化検討委員会の最終とりまとめなのでPSR手順への見通しが見えてくる。

- 今後の国の議論を踏まえ、PSR手順との整合を図っていく。
- 10年目、20年目のPSRを経年変化のマネジメントとして、30年目のPLMにどうつなげて行くのかロジックについて今後議論を進めていく必要がある。
- PLMが30年目にいきなり出てくるような感じがあり、PSRをどうつなげていくか、どういうデータを取るかなどの議論であろう。
- PLMはなぜ30年目に実施するのか、PSRは10年目、20年目に実施していると言わざるを得ない。論理構築をしていかなるを得ない。

5. IAEAガイドとの比較等

三浦副主査より、IAEA安全指針の要請事項とPSR実施手順レビュー項目の(H17.1.19)の比較結果について紹介があった。

以下の議論があった。(P6WG1-7-3)

- ・P1の下4行の諸外国と我が国の安全性を確認するシステムの違いの記載している主旨を明確にしたほうがよい。IAEA要請事項と比較してPSR標準案の項目に大きな見落としがないことを確認するもので、実施の内容や深さまでを一致させるものではないと考える。
- IAEA基準との比較の主旨を明確にするために、「レビューの項目に大きな抜け落ちがないことを確認するため」と記載する。

6. 「定期安全レビューに係る最新の欧州状況調査結果」のまとめ

倉本発言希望者より、英国、スウェーデン、ドイツおよびフランスにおける定期安全レビューに係る調査結果が紹介があった。(P6WG1-7-5)

以下の議論があった。

- ・資料として本資料の位置付けをタイトル変更、公開できるのであれば、前文を加えるなどして明確にしておく。略語が多いので略語集を添付したらどうか。また、英国のPSRは特徴があるので特徴的な点についてまとめらどうか。よふさわしいタイトルに変更する。
- 略語集は添付する。
- 全体を見ると日本を含む各国ともに法令に基づいて実施しているが、海外は運転判断と考えてよい。
- 諸外国のPSRの実施状況のレビューは終了する。

7. 標準案について

森本常時参加者より、論理の整理、文章構成等を見直した標準案について新旧を対比した説明があった。(P6WG1-7-4-2)

以下の議論があった。

- P17の報告書のまとめ方については、レビューのやり方が8項目まとめているのであれば、報告書のまとめ方ではなくレビューのやり方の問題である。
 - ・PSR報告書の物量を減らすため、報告書の工夫が出来ないのか。例えば共通的なものを外だしにするとか、2回目以降は1回目からの変更分を記載するとか。記載だけでも少なく出来る。
 - 調査対象が10年間ずれるということは、報告書の細かな中身は変わっていくが構成はたぶん変わらないので、この規定で工夫は難しい。
 - ・P13 5.3技術開発成果で電力共通研究は「共通的に実用化されたな研究」ではまずいのか。すべて包含しているのではないか。
 - 一般的な表現を記載し、内容については解説5.2に明確にしている。本体で電力共通研究の表現は削除する。
 - ・P8 4.1調査 4.2評価は項目、内容がダブっている。また、トレンド評価をこの文章で読むには無理がある。また、P10 1.2.1 1.3) 原子炉容器鋼材監視試験片の試験結果は「運転制限値が、…監視試験片の試験結果を…」とあるがトレンド評価になっているのか。
 - トレンド評価になっている記載にするため「最新の原子炉容器鋼材監視試験片の試験結果が運転制限値に適切に反映されている。」に修文する。
 - ・他の規制との取り合いで放射線管理など他の規制で確認したものをPSRで確認するのはおかしい。行政府が確認しているものを事業者がPSRで再確認するのはおかしい。
 - ・建物で言えば、PSRとしては「著しい増加がないこと」の傾向を確認する。
 - ・トレンドを見る、繰り返しコンプライアンスを確認することは目的ではない、評価対象期間10年のスパンで問題点が抽出し改善されているかを抽出するのが目的である。目的意識をもって修文して欲しい。
- 里は順次実施していく。
- は本質である。
- 本質的な部分がはっきりしないとPSRはなぜやるかの議論になる。
 - 従来のPSR実績から作り上げた手順としては、完成度があがってきた。
 - 事業者が自ら実施するものであり、無駄なことはやる必要はない。自ら作った手順で適切な評価ができ、改善点が見つけられることが重要である。
 - 再発を防ぐための妙案(運転経験の反映)が出ないか。改善点はどこか。問題点はどこか考えることが重要である。
 - 従来の情報収集(GLやIN)から対策を行うことでよいか。

8. 標準委員会／専門部会等スケジュールについて

原子力学会事務局より、今後のスケジュールについて説明があった。

PSR／PLM標準に関しては、5月開催の発電炉部会、8月開催の標準委員会に諮ることで計画している。

今後の作業は、5月開催の発電炉部会本報告をターゲットにするが、「現状スケジュールどおりすすめるか」、「高経年化対策検討委員会等の国やその他外部の動向を加味したスケジュールにするか」について、分科会主査、PLM作業会主査と調整してスケジュールを確定する。

分科会のスケジュールについては、PLM作業会の状況も踏まえ、全体スケジュールの中で検討する。

9. その他

本日説明した標準案に関するコメントを3月22日までに幹事あて連絡する。

以上